

# 文芸

## 俳句

神官の奥庭渡るにおいどり

池田 逸子

一通の葉書が運ぶ遠の春

伊藤 敬子

廃校の名残りの一幹山櫻

伊藤 定男

猫の恋奥道渡るも命懸け

今関満喜子

単色の畔道少し春の色

魚地 照子

訪なへど櫻いまだし神の杜

江森 悦子

卒業証名のみ読まれて以下同文

川島 通則

春麗ら鹿島に詣で吟行す

向後 寛

春愁の極み別れの読経かな

越川せつ子

参道の三椏の花神の鹿

小松 藤男

風光る鹿島の宮の大鳥居

佐瀬 輝夫

母も子もユニクロといふ花衣

椎名万里子

花の下一服長し老夫婦

鈴木とし子

横笛を帯に収めて花見客

鈴木 利子

山桜崖観音の頬なでる

玉虫 栗扇

青天にここにありきと山桜

土屋美枝子

耳遠くなりたる母と花めぐり

土屋 義昭

風光る清水の里をはなれずに

戸村 静華

もう少しそのままがいい春炬燵

早川 勇

クロッカス朝より気嫌良き日和

藤田 雅夫

## 短歌

回転のジャンプ成らずもアスリートの

勇姿を吾は心にきざむ

浅野 榮子

原発の不安はあれど購ひぬ

宮城のめかぶ艶やかなるを

押尾 輝子

幼子の笑みるる瞳に見守られ

しやぼん玉ふんはり漂ひゆきぬ

八角 三枝

春風に短きスカート押へ行く

高校生は少し俯き

西山満里子

金魚鉢の前に居座る猫のごと

サニーレタスの育つを見張る

青木 秀子

田起こしの斑に見える水面から

フラッシュのように光が反る

椎名美枝子

桜より梅を好みし亡き夫の

植ゑたる木より香ただよふ

田崎 尚美

尾垂浜の高台に立つ不動明王

眼を見開きて衆生見てゐつ

加瀬 弘子

下宿へと男孫帰りし夜の更けを

遠く聞こゆる電車の響き

芹川 初子

遠くより訪ひくれし娘等夫婦と

咲きの盛りの桜見てゐつ

斉藤つね子

## こうほう博物館 74

### ガラス絵の絵馬

絵馬は、前回紹介したように、ふつう木の板に絵が描かれたものである。ところが、写真のものは、ガラスに裏から絵を描いたガラス絵の絵馬である。裏面に明治三十九年と書かれ、約百年前のもので、大きさは縦36cm、横46cmである。このガラス絵の絵馬は、遠山の萬福寺にあり、同寺の本堂には、これを含めて合計十四点ある。なせこれだけの数のガラス絵の絵馬が萬福寺にあるのか、現任職も詳しいことは知らないという。しかし、たまに珍しいガラス絵の絵馬を拝観に来る人がいるという。県内では旧下総町の樂萬寺に、良く似たガラス絵の絵馬が見られ、同じ作者によると思われる。

萬福寺の絵馬には、奉納者に香取市の人が多くみられる。そこからガラス絵の絵馬は、佐原あたりで作られ、萬福寺にも奉納されたのであろう。町民ギャラリーでは今、町内所在の絵馬を集めて絵馬展が開催されています。このガラス絵の絵馬も二点、展示しています。これを機会にぜひご覧ください。(社会文化課 道澤 明)



▲萬福寺のガラス絵の絵馬

## 作品展

### ◎町民会館ミニギャラリー

5月 涼風生花クラブ

6月 写友会

### ◎文化会館ロビー

5月 (展示なし)

6月 短歌会

### ◎サビア横芝店

5月 華舟会

6月 俳句会

### ◎銚子商工信用組合

5月 アート押し花クラブ

6月 横芝写真クラブ